



地域の社会資源による中学校性教育支援の試み： 地域社会資源が学校現場と意志疎通を図るためのチ ェックシートの開発

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学 公開日: 2008-05-21 キーワード: 作成者: 北澤, 一利, 松崎, 瑞穂, 尚和, 里子, 安藤, 由美子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00005560

地域の社会資源による中学校性教育支援の試み

— 地域社会資源が学校現場と意思疎通を図るためのチェックシートの開発 —

北澤 一利・松崎 瑞穂・尚和 里子・安藤由美子*

北海道教育大学教育学部釧路校保健体育研究室

助産師（愛と生命のネットワーク）*

Social resources and sex education in Junior High School

KITAZAWA Kazutoshi, MATSUZAKI Mizuho, SHOWA Satoko, ANDO Yumiko*

Department of Physical Education, Kushiro Campus, Hokkaido University of Education

*Midwife (Love and Life Network)

概 要

助産師や保健師といった医療専門家など、学校外部にある地域の社会資源が中学校で性教育を支援する際、学校現場と意思の疎通を図る事前の打ち合わせがきわめて重要な役割を果たす。そこで、こうした学校外部の専門家が事前に学校現場が持つ性教育に関する考え方や、性教育に対する期待と目的を知ることができるような「事前チェックシート」の作成を試みた。この「事前チェックシート」は、①両者の意思の疎通を円滑に速やかにすることができる、②児童生徒の発育発達段階に応じた性教育を実現できる、③各地域や学校の実情に応じた性教育をオーダーメイドすることができる、④学校間の考え方の違いを明らかにすることができる、などの利用効果が期待できる。

1) はじめに

現在、全国の学校現場では性教育のありかたをめぐる深刻な問題に直面している¹。一つは、10代の妊娠や中絶数の増加、性感染症の増加といった現実の社会問題であり、もう一つは、性教育の内容や方法の是非をめぐる教育政策論上の混迷である。小中学校の児童生徒の健康をまもるという学校保健の立場から考えれば、各学校現場において、早急になんらかの対応策を打ち出さなければ

ならない事態にあるといえる。

このような現状を前にして、現在この問題の解決に取り組もうとしているのは、ただ学校現場や教育委員会のみではない。本学（北海道教育大学釧路校）が所在する釧路市では、平成11年頃から保健福祉部健康推進課の保健師らが思春期の子ども達の性の問題に対して、積極的な活動を展開して成果を上げている²。また、こうした行政の立場からの働きかけの他に、助産師といった医療的立場の人材が小中学校に働きかけて性教育の出前

授業を行い、学校現場を支援しようという取り組みも始まっている。

これら学校外部にある「行政」や「専門的技能を持つ人材（＝専門家）」を、本研究では地域の社会資源（＝ Social Resources）と呼ぶことにしたい。一般的な傾向からいえば、児童生徒の教育に関することは、全般的に学校が責任を負ってきたため、各種の授業をこうした社会資源の力に頼ることはまれである。しかし、性教育については、かねてより家庭や地域との連携が重視されており、その具体的な実現が急がれているところである³。そのため、こうした学校外部の社会資源が積極的な活動を行っている地域ほど、学校現場と地域が連携した性教育を行うには好条件にあるといえる。

では、これら社会資源と学校現場との連携や共同作業をどう構築したらいいのだろうか。現実的には、仮に社会資源が積極的な活動を行う地域であったとしても、学校現場が学校外部の諸機関や専門の人材と互いに連携して性教育の授業を行うことは容易ではない⁴。社会資源と学校現場のそれぞれにおいて、事情や問題意識が異なるため、双方に架け橋を築き、有効な性教育をデザインするためには、きわめて多くの時間とエネルギーが必要となるからである。

そこで本研究の目的は、この社会資源と学校現場との間に協力関係を構築し、地域と連携した質の高い性教育を実現するための手続や手段を検討することにある。本研究では、釧路市周辺の学校で既に多くの性教育を行った実績を持つ助産師や保健師へのインタビューを行った上で、今回は特に複雑な要素を多く含み、慎重な対応が必要となる中学校の性教育を対象にすることとした⁵。本論では、学校側と専門家が事前の打合せで利用できるような、相互の意思疎通をはかるための「チェックシート」の作成と開発を行った。

2) 性教育を担う「社会資源」の概況

本研究が地域の「社会資源」と称するものの具

体的な活動について、あらかじめ明らかにしておきたい。社会資源は、大きく次の三つに区別できるだろう。一つ目は「行政」であり、都道府県や市町村自治体の健康や保健福祉に関する部署がこれにあたる。法令を根拠とする行政活動においては、性教育に関する活動は、感染症の予防対策などに係わる「思春期保健事業」に該当する。参考までに、全国的にも優れた実践を行っている釧路市の事業についてまとめたものが表1である。

表1 平成16年度、釧路市役所社会福祉部健康推進課による思春期保健事業の実績⁶

事業名	事業規模
高校生対象思春期保健講座	年間6～11校 受講数 4000名
関係職種研修会	年間1～4回 受講数 100名
これからの思春期保健を考える会	年間2～3回
保護者対策思春期保健講座	年間3～5回 受講数100～200名
依頼による健康教育	年間10回程度
モデル授業	年間3校程度
健康まつり性コーナー	年間1回
中学生対象赤ちゃんふれあい体験	年間1校
高校生用リーフレット・性の辞典配付	り 全高校生 辞典2000冊
親子対象思春期保健講座	年間1～2回 2コース、60組
思春期相談	随時
市民への啓発	学会：年1回 メディアの活用

次に、二つ目は「家庭」である。今日、家庭の教育力が低下しているとみられているが、性教育に関わるさまざまな働きかけの中には、家庭で行われることがもっとも望ましい内容もあり、一つの社会資源として、今後性教育の一角としての機能を持つことが期待される領域である。

最後に三つ目が、今回特に注目する助産師や保健師など医療関係の職種に属し、専門的な技能を持つ人材である。近年、助産師が学校の性教育に

協力する事例がたいへん多くなってきている。こうした活動は、助産師の個人的な努力や熱意にも依存するため、どの地域でも均一に期待できるものとはいえないが、社会資源の一画として数えるにふさわしいほど、既に重要な機能を果たしているといえる⁷。釧路市で活動している助産師が中心となって組織されたボランティア団体「愛と命のネットワーク」では、平成17年度の一年間で、80回以上の性教育の授業を行っている。

3) 事前チェックシートが満たすべき条件

本研究で作成を試みる「事前チェックシート」とは、学校外部の助産師などの専門家が、性教育の依頼を受けて、学校現場との事前の打ち合わせを行う際に使用するものである。その際、このチェックシートが満たさなければならないいくつかの条件が存在する。

まず第一に、考慮に入れなければならないのは、どこの学校現場でも性教育に関する価値観や立場には、極めて多くのばらつきと偏りがある点である。現在、これまで一部で試みられてきたような、性の知識を率直に教えようとするリベラルな性教育がある一方で⁸、これに対する保守的な反動が強まっているが⁹、同様の考え方や立場の相違は、どの学校現場においても、学級担任と養護教諭、あるいは学校管理職との間に存在するのが自然である。さらにこれは、保護者間や地域の中にも存在する。したがって、性教育の方針を決定する場合には、まずはじめに、このチェックシートによって、各学校現場の教員が持つ性教育に対する立場や考え方を事前に明らかにすることが望ましい。助産師などの学校外部の専門家は、これによって学校現場の考え方を尊重した性教育の授業を立案することが可能となる。

次に、各学校が性教育を企画するに至った経緯や目的、または性教育に期待するものが何であるかを明らかにする必要がある。一般的には、指導要領が定める教育課程の一つとして、標準的、計画的に授業が行われることが多いが、その他に、

各学校の生徒にみられた個別の事故や問題に緊急的に対応しようとすることがある。あるいは夏休みや卒業を前に、リスクが高まる時期に応じて予防的に企画される場合もある。こうした現場の事情を明らかにすることが必要である。

その他には、性教育の内容に関わることがある。性教育は、児童生徒の「発育発達段階」に応じた内容にすることが望まれているが、発育発達段階に応じた内容は何かに関する判断は、各学校の現場の教員によって行われるのがふさわしい。そこで、性教育の授業内容の、①生命誕生（受精・妊娠・出産・育児）、②二次性徴、③妊娠、④避妊、⑤人工妊娠中絶、⑥性感染症の予防などの性教育を代表する項目の中から、現場が何を一番重視しているのかを明らかにする必要がある。

以上の授業の方針や内容に関する学校現場の意向を正確に把握することが、事前チェックシートの役割の一次的でもっとも優先される重要なものであるが、これに加えて、さらに道具や機材などの使用の可否、授業を受ける学生の数や設備などの確認といった、基本的で技術的な問題も明らかにすることが望ましい。こうした条件は、どちらかという二次的な要素であるが、打合せに要する時間や労力、あるいは、行き違いを最小限にとどめるためには大切であり、この点について十分な情報を網羅しておく、チェックシートはより実用的で便利なものとなる。

最後に、さらに副次的で三次的な項目として、担当することになる学校外部の専門家自身にとって、有意義なフィードバックとなるような情報が学校現場から提供されることが望ましい。これは、継続して活動を続けていく学校外部の社会資源の教育力を育て、情報と経験を蓄積し、さらに他地域への活動に応用することができるような準備につながるからである。たとえばそれは、なぜ学校が専任スタッフで性教育を行わないで外部の専門家に依頼することになったのか、外部の専門家に何を期待するのか、学校現場で性教育の内容を決定するのは管理職、担任、養護教諭、保健体育教諭のうちの誰なのか、といった情報である。こう

した情報は、チェックシートの役割の中でも、先行する一次的、二次的条件と比べてとくに学校間格差が大きく現れる可能性のある部分である。言い換えれば、これは各現場で行われている性教育の「決定プロセス」を明らかにしようとするもので、これまであまり注意がむけられてこなかった部分を表に引き出すような役割がある。

4) 事前チェックシートのモデル案

以上のような条件を満たすために、本研究が今回開発、作成したチェックシートが「資料1」、および「資料2」である。「資料1」は、学校外部の社会資源である助産師達専門家が、学校現場との新たな連携作業をはじめると必要となる挨拶と、授業を行うにあたって、さしあたり必要となる準備に関する調査項目が用意されている。

このうち、「こちらで準備するもの」のリストでは、一通り性教育に関する情報をすべて提示した上で、各学校現場で慎重な対応をとる必要がある項目について、明らかにする機能がある。この質問が、「授業で取り上げたくないもの」をチェックしてもらうことにしたのは、すべての機材と資料を準備して行われる授業が情報量の最大の性教育であり、そこから各学校の児童生徒の発育発達段階に応じて、あるいは、現場の担当教員の立場や考え方に依りて、内容を調整することができる考えたからである。

「資料2」は、事前チェックシートのコアにあたる部分である。この中には、授業を行う上で必要となる基礎的項目と、学校が望む授業の内容が明らかになるような項目が設けられている。特に、一般的な性教育で行われているテーマに加えて、社会資源が持つ専門的スキルや情報について、学校側がどの程度期待しているのかを明らかにするためのテーマを区別して設けた。これは、授業を担当する学校外部の専門家達に重要なフィードバックの役割も果たしている。

5) 結論

本研究で作成した事前チェックシートには、次のような利点があると考えられる。

まず第一に、学校現場の性教育に対する立場と価値観を明らかにすることができる。これによって、学校外部の専門家は、性教育を行う際に生じやすい意見の対立や認識の隔たりを未然に解消することができる。各学校現場の教員の判断に沿って、児童生徒の発育発達段階に応じた授業内容を選択することが可能となる。

第二に、このチェックシートを用いることによって、各学校現場のリクエストに応じた、オーダーメイドの性教育を実現することが可能となる。学校現場では、様々な事情や理由で性教育を実施する機会が少なくないため、そのような場合には、緊急性の高い問題を優先的に取り上げた性教育の授業をつくるのが可能になる。

第三に、社会的資源である専門家達が、年間数十回にのぼる性教育を実施することを考えた場合、このチェックシートを用いることによって、意思の疎通を速やかにすることができ、省力化できるエネルギーや時間は膨大であると予想される。これは、もともと異質のバックグラウンドを持つ社会資源と学校現場の「連携作業」を実現しやすく作用する。

第四は、このチェックシートの最も期待される部分であるが、各学校現場の性教育に対する考え方の違いや意志決定のプロセスをおもてに引き出して記録として残すことができる点である。学校外部の専門家が、このチェックシートを使用して、各学校の担当者や打ち合わせを行っていくうちに、地域別、あるいは学校間で、どれくらい考え方や立場に違いがあるのか次第に明らかになっていく。そして、それを他の地域や学校と比較することが可能となるのである。これは、将来の性教育が地域との連携をとりながらすすめていく場合にきわめて有意義な情報となると考えられる。

参考文献

- 1) 武田 敏, 性教育の現状論議と課題・展望, 産婦人科治療, 91巻, p 482-488, 2005年
- 2) 小林玲子, 釧路市における思春期保健事業の成果, 現代性教育研究月報, 財団法人日本性教育協会, p 1-6, 2004年
- 3) 中央教育審議会, 教育課程部会 健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会 (第7回, 平成18年2月9日) 議事録・配付資料
- 4) 山名れい子, 思春期ころのネットワークづくり—学校保健と地域保健の連携の中で—, 保健の科学, 第43巻, 第5号, p 367-370, 2001年
- 5) 和田和子, 芝木美沙子, 笹嶋由美, 中学生の性意識の実態調査, 北海道教育大学紀要, 第56巻, p 31-46, 2006年
- 6) 小林玲子, 市民全体で取り組む“若者づくり”北海道釧路市の思春期保健事業, 保健師ジャーナル, p 716-719, 2005年, 医学書院
- 7) 岡本喜代子, 「助産師だから伝えられる生と性」, SEXUALITY, p 130-133, 2005年
- 8) 川原井純子, “過激 いきすぎ 不適切な性教育って?”—都立七生養護学校は問い続ける—, 人権と教育, p 97-104, 2005年
- 9) 中川八洋, 山谷えり子, 児童を虐待する性教育, Voice, p 130-139, 2005年

(北澤 一利 釧路校助教授)

(松崎 瑞穂 釧路校大学院生)

(尚和 里子 釧路校大学院生)

(安藤由美子 助産師)

「資料1」

生徒の健康をまもるための性教育を実現する事前チェックシート

<打合せの前にお願ひしたいこと>

私たちは、長年保健師、助産師として、多くの女性の妊娠と出産のお手伝いをして参りました。

その過程で、10代の女子生徒の予期せぬ性感染症や、望まない妊娠や出産にも立ち会い、多くのケースで幸せな結果につながらないという現実もみてきました。

こうした私たちの経験を現在の中学生に伝える授業を通じて、私たちは、中学生が自分のからだ、また、おなじ友達のからだや人間の生命を大切に、異性の気持ちを尊重する心を育てることに役立ちたいと考えています。

この事前チェックシートには、私たちが中学生に伝えたいと考えている項目をあげました。

いずれの項目にも、保健師、助産師としての専門的な立場からお勧めしたい内容が用意されています。

学校現場の先生方には、事前に十分このリストをご覧ください、貴校の方針としてふさわしい項目をお選びいただきたいと思います。

よりよい授業の準備や打合せのために必要となりますので、ご協力をよろしくお願い致します。

<学校で準備して頂きたいもの>

(準備していただけるものに、チェックをお願いします。)

1. スクリーン
2. プロジェクター (P Cは持参いたします。)
3. テレビ・ビデオデッキ
4. C D・カセットデッキ
5. 会議用の机1脚 (教材を並べるため)

<こちらで準備するもの>

(授業で取り上げたくない項目にチェックをお願いします。(複数可))

- 1 思春期・二次性徴のリーフレット (配布物)
- 2 性感染症リーフレット (配布物)
- 3 避妊法リーフレット (配布物)
- 4 セーフアセックス (鈎路管内中絶率データ、緊急避妊法、相談窓口など) (配布物)
- 5 卵子カード (配布物)
- 6 胎児の成長模型 (妊娠2ヶ月~10ヶ月の合計5胎児)
- 7 新生児人形 (3000グラム・50センチメートル)
- 8 受精・妊娠・出産ビデオ
- 9 男性用コンドーム (閲覧のみ)
- 10 ペニス模型 1本 (実演見学)
- 11 ペニス模型 25本 (装着実習) +男性用コンドーム (受講者数分)

「資料2」

学校名	中学校			全校生徒数		人
対象学年	1	2	3	受講生徒数	男子生徒	人
対象クラス	() クラス			合計	女子生徒	人
実施予定日	年	月	日	予定時間数	() 分×	回
時 間	時	分～		担当窓口教諭(教科)	()	
授 業 場 所				事前打ち合わせ日時	月	日 時～
校 長 名				講師料の有無	有 () 円 ・ 無	
アンケート	要 ・ 不要			授業配付資料の確認	要 ・ 不要	
				保護者の参観	許可 ・ 不許可	
授業の内容	1 生命誕生(受精・妊娠・出産・育児) 2 二次性徴 3 妊娠 4 避妊 5 人工妊娠中絶 6 性感染症の予防 7 望ましい交際 8 その他 ()					
前回の授業	なし 1年次 2年次 3年次 その他 ()					
貴校で特に考慮すべき点について	(例) ・ 生徒の妊娠・中絶・性感染症などの問題があった					
自分と他人の生命を大切にするために必要な性に関する知識について	(以下の中から授業で取りあげたい項目にチェックをお願いします。(複数可)) 1. 思春期のからだ(男女の身体と心の変化と特徴, 射精や月経のしくみ) 2. 思春期の心(自我の目覚め, 異性への関心の高まり) 3. 生命の誕生(性交, 受精, 着床, 胎児の成長, 妊婦の変化, 出産) 4. 思春期の性の悩み(個人差や月経痛, 生殖器の悩み, 相談の多い悩み) 5. 性的欲求と人間関係, 性の自己決定と責任, 望ましい交際 6. 性に関わる危険な行為(出会い系, 援助交際, レイプなど,) 7. 人工妊娠中絶と避妊方法 8. 性感染症の症状と後遺症 9. 性感染症(エイズ)と予防方法					
保健師・助産師の専門的立場からお話したいこと	1. 10代の妊娠に共通することは?(無防備, 過信, 安心, 無知, リスク) 2. 10代の出産に伴う身体的・心理的・経済的問題 3. 中絶はどのようにするの?(10代の中絶のリスクと後遺症) 4. 中絶すると女性のからだと心はどうなるの? 5. 釧路管内の10代の中絶件数, 性感染症の現実は何? 6. 性感染症ってなに?後遺症は心配なの? 7. HIV/AIDSに感染した人の現状は? 8. デートで気をつけないといけないことは? 9. 妊娠してしまった時はどうすればいいの?相談する場所はどこ? 10. 避妊に失敗した時はどうすればいいの?(緊急避妊法)					